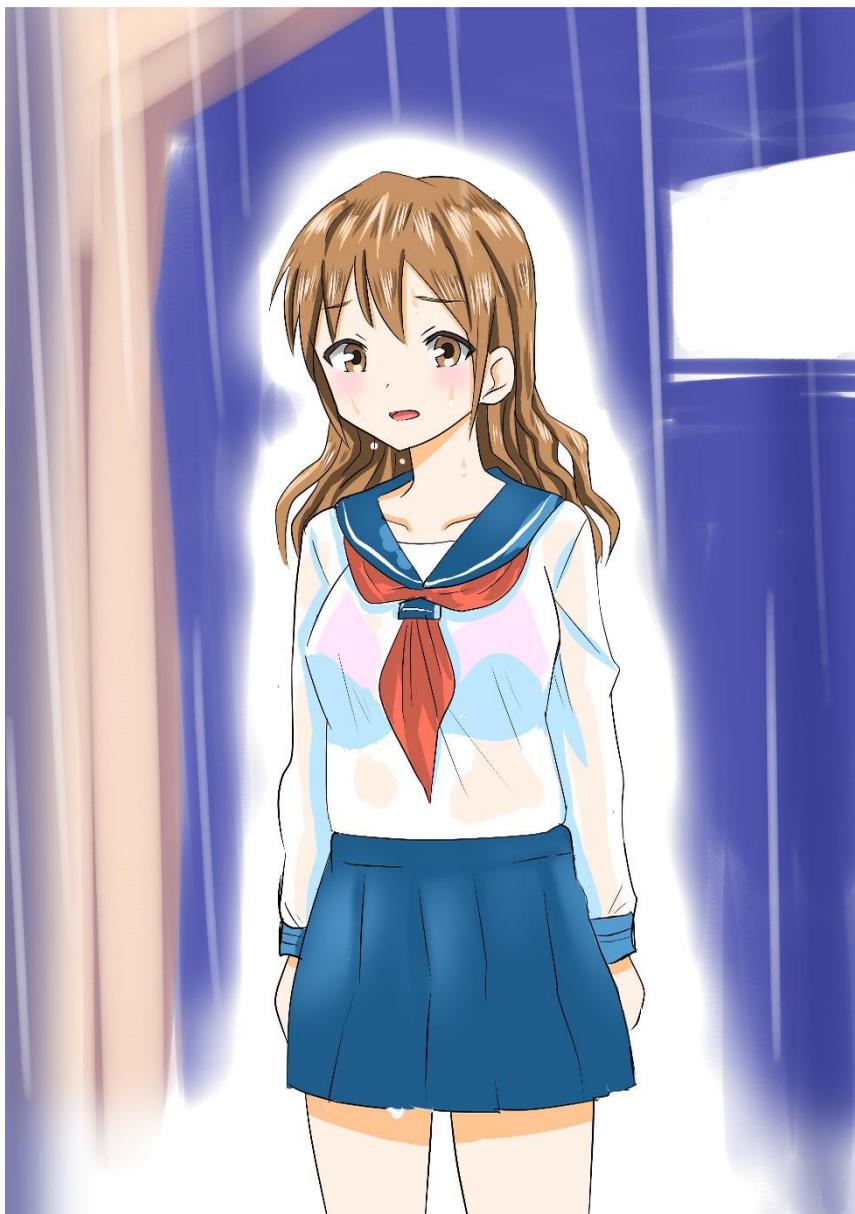


少女は雨宿りで犯される。



小説モーメント



ここは片田舎の畦道。あぜみち

乙女にとつてこの上なく恥ずかしいことあると言う事を、ウブな女子高生の早川玲奈れいなは知らなかった。

学校の帰りの事だ。強い雨が降りだし、バス停に着くまでに玲奈の身体はすっかり濡れてしまっている。玲奈の制服はずぶ濡れのため薄いピンク色の下着が透けて見えてしまっている。

バス停に着くと待ち合い小屋にはすでに、バスを待つ人が座っていた。

「あつ坂本先生」

座っていたのは、玲奈が通う学校の化学の教員、坂本だった。

「なんだ、早川か・・・」

じつと見る坂本の視線は玲奈の胸の辺りへ向かっている。

「えっ？ あっ！」

セーラー服は水に濡れたために肌に張り付きブラジャーがはっきりと見えてしまっているのだ。

男の視線の先が自分の体だと判ると慌てて体を隠し顔を真っ赤にする。スカートもぐしよ濡れ、太股は艶めき色気がある。

「ずぶ濡れじゃ無いか？ほら、先生のハンカチで拭いてやる、さあこい」

「い、いえ結構です」

玲奈はそう言う。

「いいから、そのままにしておくで風邪をひいてしまうぞ」

「あっ」